

貝塚市吹奏楽団 第24回定期演奏会

KAIZUKU CITY
WIND ORCHESTRA

2019年
3月17日(日)

開演14時
(開場13時30分)

本公演は貝塚市の助成を受け実施しています。



貝塚市民文化会館

コスモシアター大ホール

主催 貝塚市吹奏楽団
後援 貝塚市教育委員会・大阪府吹奏楽連盟
(一財)貝塚市文化振興事業団

ごあいさつ

南からやわらかな春風が吹き、眠っていた生き物たちが目覚め、まちが華やき、元気あふれる季節となりました。

本日は、私ども貝塚市吹奏楽団第24目定期演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。

当吹奏楽団は平成7年5月に発足して以来、青少年の健やかな成長と地域の文化活動の向上に寄与することを目的として、今日まで様々な活動を展開してまいりました。平素は、大阪音楽大学非常勤講師であり、ユーフォニアム奏者としてご活躍中の中西 聡氏を指導者として、平日の夜間や週末を利用し、熱心に練習に取り組み、山手地区公民館でのコンサートや貝塚県取吹奏楽祭などを主催するとともに、消防出初め式や成人のつどいで演奏など、市内各地域イベントや泉州市民バンドフェスティバルへの出演など積極的な活動を行っております。

さて、本定期演奏会は、これまでの練習やコンサート活動の成果を披露させていただく場として位置付け、吹奏楽のオリジナル曲をはじめ、多くの方に楽しんでいただけるよう、様々な趣向をこらし構成しております。

音楽は力があります。人を元気にしたり、心を癒したり、あるいは思い出をよみがえらせたりと、様々な力があります。また、人と人を繋ぐ力もあります。本日は吹奏楽を通して、元気と勇気、夢と希望、誇りと絆の尊さをお届けしたいと考えています。そして、ご参加の皆様と私たち演奏者が一緒に喜びを共有し、一人でも多くの人へ広げていきたいと心から願っています。

短い時間ではございますが、皆様に少しでも吹奏楽の素晴らしさを味わっていただけるよう、心をこめて演奏させていただきます。

この演奏会が今後も続けられるよう、これからも技術の向上と「こころのふれあい」を大切に、「市民に愛される吹奏楽団」として地域文化の向上に寄与できますよう、団員一同よりいっそう努力してまいりますので、みなさまの温かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

結びとなりますが、今回の定期演奏会の開催にあたり、ご指導いただいた先生をはじめ、応援していただいている市民の皆様や関係各位の皆様にご心から深く感謝申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

貝塚市吹奏楽団 団長 鈴木 司郎



第1部

ライド ————— 作曲 サミュエル・R・ヘイソ

コーラル・ブルー ————— 作曲 真 島 俊 夫
沖縄民謡「谷茶前」の主題による交響的印象

「ノートルダムの鐘」より ————— 作曲 アラン・メンケン
編曲 森 田 一 浩

第2部

塔の上のラプンツェル・メドレー — 作曲 アラン・メンケン

ムーンライトセレナーデ ————— 作曲 グレン・ミラー
編曲 金 山 徹

ジャングル・ファンタジー ————— 作曲者不詳
編曲 岩 井 直 博

愛の讃歌 ————— 作曲 マルグリット・モノー
編曲 星 出 尚 志

ディーブ・パープル・メドレー ——— 作曲 ディーブパープル
編曲 佐 橋 俊 彦

第3部

オセロ ————— 作曲 アルフレッド・リード

曲紹介

1部

ライド

サミュエル・R・ヘイズの代表曲とも言える「RIDE」。

速いテンポと細かいリズム、度々切り替わる変拍子が特徴的なこの曲は、作曲家のジャック・スタンプへの感謝を込めて作成されました。

ジャック・スタンプの運転する車でベンシルバニアの田舎道を猛スピードで移動している時に、その流れ行く美しい風景と疾走感の中、ヘイズはこの曲を完成させたそうです。

トップスピードで疾走する緊迫感やスリルを、どうぞお楽しみください。

コーラル・ブルー 沖縄民謡「谷茶前」の主題による交響的印象

題名の通り沖縄民謡の「谷茶前(たんちゃめ)」を基にして作曲した作品で1991年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲に選ばれました。民謡「谷茶前」は、沖縄北部西海岸の原納村(おんなそん)谷茶にある漁村の日常風景を歌にしたものです。曇り日差しを感じさせる描写から始まり、民謡「谷茶前」の主題を用いながら、そこで生活する人々の快活さ、そしておらかなさを想起させる本曲。沖縄の美しい情景を思い浮かべながらお楽しみください。

ノートルダムの鐘

「ノートルダムの鐘」の原作は、「レ・ミゼラブル」で知られる小説家ヴィクトル・ユーゴーが執筆した小説「Notre-Dame de Paris」。ディズニーによりアニメーションが制作され、その後ドイツ、アメリカ、フランス、日本など世界中で公演される大人気のミュージカル作品となりました。教会の鐘の音、そして聖歌隊のコーラス、クラシカルかつシンフォニックな荘厳さをお楽しみください。

2部

塔の上のラプンツェル・メドレー

塔の上のラプンツェルは2011年に公開されたディズニーの長編アニメーション映画です。

赤ん坊の時に老婦にお城から連れ去られたプリンセスのラプンツェル。老婦は不思議な力を持つ髪を強り占めるために、ラプンツェルの育ての親になり、18年もの間高い塔に閉じ込めていました。ずっと塔の中で暮らしていたラプンツェルは18歳の誕生日について外に出ることを決意し、冒険の旅に出ます。

本日は映画の中から4曲をメドレーでお送りします。

ムーンライトセレナーデ

ムーンライトセレナーデは、ジャズのスタンダードナンバーのひとつで、グレンミラー楽団のテーマソングとも言える楽曲です。

日本でもCMのテーマソングとして起用されたり映画の挿入歌として扱われたりと、耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

ムーディーに演出された本曲を、ゆったりとした気持ちでお楽しみください。

ジャングル・ファンタジー

1930年代以降に、「ルンバの王様」として知られたスペイン人、ザビア・クガート率いる楽団の演奏で有名です。ザビア・クガートはルンバのみならず、広くラテン音楽をラテンアメリカ人以外に広めたエンターティナーで、特に真の知らないラテン風ナンバーを得意としました。

エキゾチックなメロディーとジャングルの生き物を表現した様々な効果音は聴く者を楽しい気分させてくれることでしょう。

愛の讃歌

シャンソンでは、言わずと知れた名曲です。

エディット・ピアフ自身の作曲でドラマチックに歌いあげられ、世界中の人々を魅了してきました。日本では越路吹雪さんが歌い有名になりましたが、近年では多くのアーティストがカバーしています。

本日は貝吹バージョンでドラマチックな演奏となるよう心を込めて演奏します。

ディーブ・パーブル・メドレー

「ディーブ・パーブル」はイングランド出身のロックバンドです。1967年に結成され、1976年から1984年まで8年間の活動休止期間を経て、現在も存続しています。「ハードロック」を標榜したバンドであり、また「ヘヴィメタル」の先駆的存在とも言われています。今回は、黄金時代の代表的楽曲「バーン」「ハイウェイ・スター」「スモーク・オン・ザ・ウォーター」の3曲をメドレーでお送りします。途中バリトンサックスのかっこいいソロにご注目ください。

3部

オセロ

イギリスの劇作家シェイクスピアの書いた四大悲劇のひとつ【Othello】をもとに、吹奏楽作品の巨匠アルフレッド・リードが作曲しました。

【あらすじ】 戦の英雄として名声を手に入れていた将軍オセロの周りには、美しく誠実な妻デズデモナと、オセロを尊敬してやまない副官キャシオ、そしてオセロをうらみ、いつか失脚させてやろうと企むイアーゴがいました。イアーゴはあの手この手でキャシオを副官から撤廃とし、「デズデモナに横み込めば復讐できる」とささやきます。そうしてキャシオとデズデモナが近づく、イアーゴはオセロに巧みに語りかけ、二人の間に浮気があると思込ませます。疑いが心をむしばみ、ついに苦しみに耐えきれなくなったオセロは、新たに副官となったイアーゴにキャシオの殺害を命じ、自分は妻デズデモナを絞め殺してしまいます。しかし、イアーゴの妻から全ての真相が語られ、キャシオもデズデモナも最後までオセロを裏切ってなどいなかったことを知り、自ら死を選びます。

I. 前奏曲（ヴェニス）

「石を柱に嵌ってきた私には、戦場こそ寝毛のベッドなのです！」

「前奏曲（ヴェニス）」は、民衆が見守る中、嵐をぬって敵国トルコ軍を破ったオセロの軍艦がキプロス島に寄港する場面で、戦時の雰囲気と物語の悲劇の予感を張りつめた緊張感をもって演奏されます。

II. 〈キプロス〉

「おはようございます、将軍」

「期の音楽（キプロス）」は、明け方に副官キャシオが、オセロの寝床に楽座を連れて来て目覚めの音楽を演奏させる場面で、1楽章の緊張感から一転して穏やかな情景が演奏されます。

III. 〈オセロとデズデモナ〉

「私の過去の苦難を彼女は愛してくれた。だからこそ私は彼女を愛したのです。」

「オセロとデズデモナ」はオセロがヴェニス元者院で行った有名なスピーチに基づいています。幸福感に満ち溢れ高まる愛情が表現されていますが、最後に現れるトロンボーン四重奏が演奏する「運命」の不吉な響きが悲劇を予感させます。

IV. 〈狂臣たちの入場〉

「見よ、ヴェニスの獅子を！」

「狂臣たちの入場」は壮麗にして激しいマーチです。妻デズデモナへの疑念と嫉妬で半狂乱になったオセロが公の場でデズデモナを罵倒し、オセロを落としてめようと面策をした旗手イアーゴがあざ笑いながら叫びます。

V. 終曲〈デズデモナの死〉

「今私にできることはキスしながら死ぬことだけだ…。」

「終曲〈デズデモナの死〉」で引用されているのは、デズデモナの死体に話しかけるオセロの有名な最後のセリフです。嫉妬に狂ったオセロは床に就いたデズデモナの首を絞め殺してしまいます。直後、真相を知り愕然とするオセロ。穏やかに響くトロンボーンの「葬送のエクヴァーレ」。そして後悔は一気に高まりオセロはナイフを自分の胸に……。そこへデズデモナの主題が流れますがやがてティンパニーの「運命」に変わり、そして静かに途切れます。

5つの楽章で構成され、オセロの物語の各シーンを色彩豊かに、激しい感情表現をもって見事に描いています。人間の持つ心の闇さ、もろさの内に、切ない美しさを見る、そんな作品となっています。どうぞ最後までお楽しみください。

指揮者紹介



中西 勲 Isao Nakanishi

大阪音楽大学卒業。吉岡康博、末吉秀夫、三浦徹、石崎一夫各氏に師事。
ユーフォニアム奏者。現在は大阪音楽大学非常勤講師、木津川ウインドオーケストラ音楽監督、神戸大学応援団総団吹奏楽部バンドトレーナー、また奏者として、大阪小バス倶楽部、ジャパン・プラスコレクションメンバーとして活躍中。
2001年より当楽団の指導にあたる。
1967年3月17日生。AB型。ユーフォニアム、タクト、そして・・・ジョッキが似合う。
とても情熱的な指導者である。

役員紹介

団 長：鈴木 司 郎 (貝塚市教育長)
顧問：坂本 修 司 (貝塚市教育委員会教育部長)
西川 修 助 (貝塚市文化振興事業団理事長)
寺本 達 夫 (大阪府立貝塚南高等学校吹奏楽部顧問)
事務局 長：水本 孝 学 (貝塚市青少年教育課課長)

楽 長：岡野 広 幸
副 楽 長：川 端 長 世
管 理 部 長：島 本 隆 充
演 奏 部 長：馬 野 ゆかり
会 計：藤 井 千 星
監 査 委 員：浦 田 英 明
田 中 和 代
団 員 指 揮：川 口 貴 史

河内谷 記久子
島 本 充 美
田 中 和 代
楽 譜：岡野 広 幸
広 報：東 口 あかね
渉 内：川 端 長 世
受 付：菱 田 悠 花
マネージャー：野 村 圭 一
ホームページ：田 中 清 武

定期演奏会

企 画：南 晴 美
大 石 誠 子
菊 一 綾 子
佐 野 夏 紀
角 谷 香 名 子
会 計：田 中 智 歌
印 刷：楠 本 匠 匠
高 橋 里 繪
土 橋 愛



<http://www.geocities.jp/kaizukaaisui/>